

## 一般社団法人日本有機農産物協会主催 第一回交流セミナー実施

一般社団法人日本有機農産物協会（Japan Organic Products Association）は、2019年8月2日（金）に新宿NSビルにて、自治体間交流を目的とした「第一回交流セミナー」を実施いたしました。（第4回オーガニックライフスタイルEXPOと同時開催）  
本セミナーは平成31年度農林水産省の「産地間・自治体間連携支援事業のうち自治体ネットワーク構築及び流通技術課題対応実証支援事業」のプログラムとして開催いたしました。

セミナー冒頭に、農林水産省生産局農業環境対策課の及川仁課長よりご挨拶を賜りました。農林水産省は、有機農業を活かして地域振興につなげている又は今後取り組みたいと考えている自治体をサポートする体制づくり、相互交流、情報交換や連携を促す「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」のキックオフを宣言いたしました。当セミナー参加者で自治体ネットワークのメンバーである、千葉県いすみ市、千葉県木更津市、千葉県匝瑳市、愛知県東郷町、宮崎県木城町の担当者が前に整列し一礼する場面もありました。



### 第一部（講演）

本セミナーでは、2つの講演テーマを設け、各講師に自治体や企業での取り組み事例を紹介して頂きました。講演テーマ1「給食から広がる有機農業産地づくり」は、千葉県いすみ市役所様および愛知県東郷町様よりご講演頂き、講演テーマ2「加工品・マーケティング」では、株式会社こだわり様よりご講演を賜りました。

#### ◇講演1「給食から広がる有機農業産地づくり」

千葉県いすみ市農林課 主査 鮫田晋氏

2013年にほんのわずかな水田から無農薬の米栽培を始め、2017年に市内の小中学校の給食米を全量有機米に転換したいすみ市。全国初の有機米への転換の経緯や苦労、思いなど詳細に説明されました。米の栽培に適したいすみ市の肥沃な土壌と豊富な水資源が後押ししただけでなく、里山地域の活性化（生物多様性）における有機稲作の価値が取組を実現させたと発表されました。さらに、市では、有機米栽培農家の育成、有機米（名称：いすみっこ）のブランディング、有機野菜の導入などにも力を入れており、ますますの発展に期待したい先進事例の発表となりました。



#### ◇講演2「給食から広がる有機農業産地づくり」

愛知県東郷町経済環境部産業振興課 主事 磯村英志氏  
TOGO GREEN WORKS 代表 松田洋幸氏

東郷町は名古屋市と豊田市に挟まれた子供が多い大都市近郊の地域です。学校給食での地元食材の使用が限定的、町内は慣行農法が主流の地域でした。しかし、平成30年、現在の町長が就任し、「日本一おいしい給食」を掲げ、関係部署が一丸になって給食改革に取り組んだ結果、今年度より、町内の保育園および小中学校の給食にて有機農産物の使用開始したと発表されました。また、町内唯一の有機農家（TOGO GREEN WORKS：代表松田洋幸氏）との連携を重ね供給体制を構築しました。今後は、品目を増やすこと、安定的な有機食材を提供すること、有機農家の育成を推進していくことを力強く説明し、締めくくりました。

### ◇講演3 「加工品・マーケティング」

株式会社こだわりや専務取締役 藤田友紀子氏

「環境にも身体にもやさしい」、「次世代へつなぐ」、そして「おいしい」を基本とし、首都圏中心に店舗を構えるこだわりやは、食品事業者と小売り事業者が連携し、地域の農林水産物を活用した加工品の商品開発と販売促進に取り組む事業を行っており、セミナーではその詳細を説明されました。長年の知識と経験、そして現場主義の考え方にに基づき商品開発を行い、一方、販売店舗では、スポット的な販売やフェアの開催を積極的に行い、開発した商品の販売を強化しています。また、一時的な商品開発ではなく、お客様に長く愛される「定番化」を最終目標に据えている話には、地域の有機食材を全国に向けて販売を模索している自治体には非常に魅力だったと思われれます。



### 第二部（グループディスカッション）

講演内容を踏まえ、参加者同士、自由に意見を交換できる交流の場を設けました。協会会員がファシリテーターを務め、自己紹介、各自の取組内容の紹介など、情報共有することで参加者のきっかけづくりを推進しました。

#### —Aグループ—

有機農業の拡大には、消費者の理解を高めることが消費拡大に必要という意見がでました。

- ・意見交換会、栽培環境の視察などの機会を設けるなどして、有機農産物の栽培の難しさ、生産者側の価格を下げられない状況等を積極的伝える取組みを行うことが大切。
- ・有機農産物のストーリーを伝えることにより、食品残差の削減や消費拡大に繋がるのではないかという意見も。

#### —Bグループ—

有機野菜だけでなく果樹も含め、有機農産物を給食に取り入れたという参加者が多かったが、具体化させる一步が踏み出せていない状況を確認しました。

- ・自治体ネットワークを利用し、横連携をとりつつ、情報交換していきたい。
- ・自分達の直属の上司に、有機農産物の給食導入の意思を申し出る一言から始めていくことを共有。
- ・これから先どう取り組むかを考える第一歩になった。

#### —Cグループ—

学校給食への有機農産物の導入は、いかにJAを取り込み、また、地域の力を結集させるかという事が大切だと確認しました。

- ・有機農業は技術的な課題があり、失敗例も多くあるが、ひと昔に比べれば整備されている。また伝える力も強くなっている。先駆者に学ぶ姿勢を大切にしていきたい。
- ・木更津市では今年から生産者5名がスタートし、有機の給食を提供できるようになった。直ぐに目標に達するのは無理でも、一つ一つの目標を立て進むことが大切。



### 閉会あいさつ

有機農業がもっている力は、豊かさ、幸せ、平和を実現できる側面があります。地域振興の中では「食」はキーワードになり、結集軸は作れると思います。色々な業種の方と情報交換をして推進していきたいと思っています。次回の交流セミナーは2020年2月を予定しています。



### 【報告に関する問い合わせ】

メディア関係の方向けの問い合わせ先

一般社団法人日本有機農産物協会 広報担当 菜花

TEL : 03-6863-3337 E-mail : [info@j-organic.jp](mailto:info@j-organic.jp)

<http://j-organic.jp/>